

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ローズエリー 西棟	評価実施年月日	H20. 6. 28
評価実施構成員氏名	井出 真由美 若館 理佳		
記録者氏名	井出 真由美	記録年月日	H20. 6. 17

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「スローバウン」</p> <p>一歩一歩、ゆっくり、楽しくをモットーに共に生きながら、利用者に合わせた生活に合わせた心がけをする</p>		<p>決まった日課(時間によるプログラム)を設けず、利用者の体調や気分に合わせて利用者本位の生活を提案している</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>個人性を大切にし、その人らしく、生活が成り立つようサポートしている。</p> <p>個人の持つ力を発揮できるよう引き出し、日常生活に取り入れている</p>		<p>個々の生活スタイルや生活パターンを踏まえて、あるべき、出来るだけ近づける努力をしている</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>認知症という病気を理解してもらうよう家族や地域へ積極的に働きかけている</p> <p>手話は、支援している</p>		<p>家族と利用者との交流の場の頻度を増やし出来るだけ多くの企画を立案し積極的に外出(外出含む)機会を設けている</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>花壇や庭 野菜畑の造作を行った。</p> <p>散歩をしてくれる方との会話を楽しんだり</p> <p>気象などに合わせた日常的な対応が出来ている</p>	○	<p>密着した環境づくりを目指している(挨拶や仕度含む)</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>今年も努めていく所、改善していく。</p>	○	<p>一部の入居者のみ外出している</p> <p>もっと多くの交流の場を設けていきたい</p> <p>聲かけや本朝を視野に入れ努めていきたい</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>上記と同じ</p>	○	<p>地域との交流の場、機会を多くし積極的に情報を得てほしい</p> <p>又、理解を深めてもらえるよう考慮したい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>奥方知ある意義の理解は出来ている 運営規程の概要は読む。</p>	○	<p>課題は、残っているが、出来事があり実を押し見直しが必要なのは、その度で改善する</p>
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>状況等の話し合いを行い、随時見直しを行い、サービス向上に活かしている</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>生活相談員の方が来訪し(生保)日常生活状況、身体面等を報告している 市町村と現場状況は、きちきち、理解しあっている これからの現状は、</p>	○	<p>むしろ市町村と密に連携出来るよう積極的にサービスの質の向上に重点をおき取り組んでいく事必要</p>
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>包括的支援事業については、まだまだ学ぶ事が多いため機会を増やせるよう取り入れていきたい</p>	○	
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>利用者の人権が侵害されていけいか、背景等見極め把握出来るよう、観察、見守りを徹底し始めていく</p>		<p>今後とも指導、見守りをしていける視野に入れていけるよう目指していく</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>又居時、家族に説明書を配り内容説明を実施している 手紙文書による同意を得ている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からの苦情等については、苦告しどおし空響の中でその際、苦告し合いを設け、傾聴し状況を把握した上で、その人らしく生活出来るよう改善点を引き出しITでサポートしている</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族の面会時には、もちろんのこと、適時、利用者の変化に応じて、報告を行っている</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見や要望を取り入れたり、または、不満や苦情については、十分に理解し受け止め、遂行に運営出来るよう努めている</p>		<p>家族等関係者の生活の安定も視野に置いて情報の共有化を努めている</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月1回ユニオ会議 臨時全体会議を開催し、個々の意見を取り入れており、情報交換を行っている。今後にも策かき等より反映している</p>		<p>引き継ぎへの活用(文書)口頭での引き継ぎを常に行っている。会議以外でもその場で相談と申し送りをして問題解決している。又、同意を得ている</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>努めている</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動は、必要最小限に抑えユニオ間が円滑に遂行出来るよう必要最小限に抑える努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	それぞれの段階に応じた研修を段階して いる		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	お互いに助言、援助し入居者に合った 対応も考慮している		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい環境 にし、親睦を深めている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	ローターションを組むことから勤務稼働をしてお 適時、個人の評価を行っている また、有資格者には、割合に応じて配属している		各自、責任をもち、常に緊張感を 保ち、稼働を果している
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	職員それぞれが役割が活発に信頼関係 ができており、不安要素がある際は、対応策を 考え解決方向へ向く取り組みをしている		情報把握は、もちろんの事 問題が生じた際は、あらゆる方面から 考え支援を行っている
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	意向等再確認等常に付いた相談に いる等、家族との情報交換を行っている		関係者間との連絡調整 情報提供や助言を行う 側面的に支援の姿勢を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ADLの現状維持に留意し 一人ひとりの個性を生かして支援している</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>人権の尊重・人権の擁護ある立場を保持し 無理強いをせず 共同生活に慣れさせる 楽しく過ごしてもらえるよう配慮している</p>		<p>個人の生活パターン(居室で経過観察等) を順応できるように、もてなわを發揮 出来るよう、支援している また、無理強いのない程度の共同生活に お配慮している</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に生活をして、一緒に、ゆとり楽しさばかり 生き生きとした生活を送れるよう支援している</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ケアあるにあたり、職員間だけでは難しい 場面に出くわす事もある。そこには家族の協力が あって成り立つ事もある。家族の負担に もよばないよう支えていく関係を築いている</p>		<p>本来あるべき姿に近い 生活ができるよう、家族と共に 支援していきたい</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>個人の状況に応じて(精神面等)家族との 交流も深めてもらえるよう外食や外泊を促している</p>		
<p>○馴染みの人や場所との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>電話や面接時の対応に関わりの中で 認知症の理解、知れよで対応に努めて 頂いている(本人の不安や自尊心を守りつつ 配慮している)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルが生じる前の迅速な対応と 生じた後の同居者のフォローに努めている	○	
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他界した利用者家族との関係等 現在でも相談に応じて継続的関わりを 大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向も取り入れながら把握し 検討している また自らの確に判断する事も必要である		利用者本人の意思を尊重すると共に 利用者が誤りのない自己決定を導き 出せるよう利用者の家族からも事情聴取 している
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	病歴、生活歴といった既往生歴は 入所前に全職員把握している 入所後の経過観察の中で変化等、特変時は 常に把握に努めている		必ず入居前は、本人との面談 (家族同席の元)を行っている
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	発言一つにしても見逃さず、心身状態 各職員徹底し観察をしている 正確な事実把握に努めている		夜間帯に於ても不安な点があった際は 一人で解決するのは、多く役職者への 報告をし指示を仰ぐため、協力医療機関 に本相談じながら努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	適時、立案をし計画を作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと もに、見直し以前に対応できない変化が生 じた場合は、介護支援専門員の適切な監理 のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、現状に即した新たな計画を作成して いる。	状態変化に応じた取組時の見直しを行っている 関係者間との連携にも努めながら実施している		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる。	個別記録は別に 個人情報等を発生時等、おぐ支店に出来るよう 工夫をし強めている		新規職員への研修説明にも 役立ており、おおりに有効出来 今後も継続実施していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応 じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている。	柔軟な支援をしている 難点の要望については、十分と言葉を明にし 承諾を得ている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員 やボランティア、警察、消防、文化・教育機 関等と協力しながら支援している。	ボランティアでは、家族との関係強化を図る方に ホール入居を促し、話し合い、話し合い 余剰を行っている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他 のケアマネジャーやサービス事業者と話し 合い、他のサービスを利用する為の支援を している。	他のサービスの事業者と情報交換する等とし 連携に努めている	○	
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている。	必須事業の権利擁護事業を等々 情報収集し、おおりに十分に対応できるように している	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>実施している</p>	<p>○</p>	<p>入居の際、家族の希望による病院も取り入れ、通院のサポートしている。</p>
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>支援している 認知症の引き出し・見当識検査・維持等 留養関係も連携を求めている</p>		<p>状態に応じた対応を心がけている</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>病院側との交流も深められており 良い関係が築きあげられているため 気軽に相談出来る体制にしている</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>協働病院始めとする医療機関とは 密に連携しており、相談にも対応している</p>		<p>歯科についても、協働病院ある</p>
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>協働機関または定期的医療機関との 繰り返し話し合いを言っている 利用者とかかりつけ者と連携し方針を共有している</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>生活歴等を考慮しながら個人の出来事等見極め 段階に応じた支援、または維持・ 在り方調整をいかにサポート、工夫し、 かかりつけ医と共に取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>認知症だからといって本人の意思を無視した受け入れ体制は、せめて前七か月前に文書にて行い利用者本位のササエの意思を大々明示住みかた環境に近い空間作りを行っている</p>		<p>本人の意向も考慮している</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>自尊心を損ねる声掛けはしていないが仮にそのような取扱いを見かけた際はその場で指導をする 個人の情報は、厳重に取り扱っている</p>	○	<p>個人の秘密厳守 今後も継続指導していく</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定が出来るよう、声掛けに、配慮している 思いや希望を遠慮する事はない。 話しやすい空間づくりをしている</p>		<p>個人の利用者に任せ、目を付けない のではなく、全体に、目を向けたい 個人においては、やせかちをなくした 精神圏に存在出来る方もいるため</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>拘束を止めているよう生活に任せよう 食事時間、就寝時間等 個人のペースに合わせた、声掛け希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>女性としての身だしなみ、男性としての身だしなみ、衣服は持ちろん、化粧をして、気分転換を図っている 特に外出時は、合入りに行かない ひよりの気分に合わせて髪型を変えたり、用意等工夫している</p>		<p>出張美容ササエを利用し 適時希望を甲対、または、利用者からの希望の際にも行っている</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材、野菜等、手伝ってもらったり 盛り付け、片付け、おバテにおいて、共に取り組んでいる。 中ホリとした空間の中で取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個人の好玉焼りを前もって把握し 食材も考慮した上で献立を作成している 個別に好みの食材を希望に取り入れ見繕している タバコ、お酒についても個人の状態に合わせて対応している		飲酒～家族の解と本人の体調の仕 時間を決めている 喫煙～火元には十分気を付けなければならない ため、おため、靴履の目の行手細く場所を
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別に排泄パターンを把握し定時の トイレ誘導や和トイレを使用する事で オムツ使用者が減少している	○	
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日希望を、合わせた入浴を実施している 朝、入浴前にバイタルチェックを実施し体調 の把握に努めている		拒絶する利用者の声掛けにも 考慮している
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自由の関わりを重視し夜間の良眠を促している 一人ひとりのペースに合わせた無理のない生活を 送っている。特に安眠出来ぬ方には薬物を実施している。		安眠に薬に頼る事は、避けなければならない ところが、最小の使用量で最大の効果を 得る工夫、環境の整備にも重点を おいている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の特技・趣味が活かせる、その人が得意としたり 個人の目標と対応、生活のメリハリが できる。また、最低でも月に一度は外出し、頻度が増えている 状況に応じて支援している		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家振、本人からの要望に即管理を任せたりする 所持希望の際は、説明と家振同意のもと 支援している		必要時、本人に手配しを行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>61 ○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>日光浴を希望に応じ、買い物へ、行ったり 気分転換を促している。 月に一度は企画を立て、交流を深めている</p>		
<p>62 ○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>夏祭り等、地域での行事参加 バスの交通機関を利用し、レジャーセンター等 付き添いで外出している</p>	○	
<p>63 ○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>支援している 本人希望に合わせて対応</p>	P	
<p>64 ○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>職員の基本自らのあいさつから始まり 気軽に遊びしてもらえよう努めている</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
<p>65 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員、身体拘束をしないケアを実践し 総務科に生活出来るよう、環境にも留意 している</p>		
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>不整状態に于ける徘徊(帰宅原望)の支援 としては危険を生じる事もあるため(事故防止) 施錠はやむを得ない事には対応しては、 家族の理解を促している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>拘束中ではないものの状況は、セーブしておき、個々の利用者に合わせて対応をしている。(自尊心を損ねる事の心配あり)</p>		<p>夜間帯は2巡回以外でも状況・状態に合わせて対応をしている プライバシーには常に配慮している</p>
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の了解を得る輸送管理としている 保持状態等は十分取り扱いはついで説明をしている</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒～倒れ防止等の感知器具の取り入れ 誤薬～名前確認等の確認徹底している 火災防止～危険物の取り扱い、外出後には必ず必ず 衣服等の確認を行っている</p>		<p>誤薬した際は、協力医・薬師等と連携して指示を仰いでいる</p>
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>定期的に実施して行っている 職員が内容を熟知している (各ユニットに冊子を設置)</p>		
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>実践している</p>		
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日常生活における留意点を共有化してから家族間自身も安心して生活が出来る よう、方針策を話し合っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に入居者ひとりひとりの状況を観察し把握している 口頭・文書を引き継ぎにて情報を共有している		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居前の情報把握又は入居時に再確認 そして適時変更の取次等は、口頭・文書にて確認し管理している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	好易に薬に頼るのを避け、特にヨーグルトといった乳酸菌の摂取や水分UP等 便通を良くする工夫をしている		排便状態も必ず確認している
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔の4大機能を維持するため毎食後の実施 機械的清掃、そして化学的清掃を 取り入れたケアを行っている		肺炎性肺炎の予防にもつなげる 拒否等から毎食後実施出来る際は、 夕食後の1日1回は実施している
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立作成時、バランスを考え作成している 個人の身体機能に合わせ調理方法を 留意している		塩分少なめにする等配慮している
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	オリエンテーションにて感染症対策、 MRSA等の説明会、 各ユニットに感染症マニュアル冊子設置		手法いろいろが実施している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	その都度点検し衛生管理に努めている		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	家庭的な雰囲気の中で暮らやすく工夫している		
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居者一人ひとりの意見も取り入れながら配慮している。特に、エントランス・装飾している		利用者間同士、折りが悪くても、実際は環境を改善(ユニット物販)も視野に入れている。不快な思いをしないためにも掃除も念入りに行っている
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	束縛せず、その方のペースに合わせた居場所を確保している		利用者同士との交流、(同業者との交流)の場を大切に。配慮している 折りがいいように利用者同士を同じ環境のわき、生活出来ている
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	生活環境が一変しないよう配慮している 転倒の危険がおよぶ利用者については、足元に明りを照らす等の工夫をしている		入居前に家族に説明し、使い慣れた家具等 搬入してもらっている
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	臨機応変で対応 加湿器を設置したり、利用者の身体状況を見ながら対応し、また利用者の要望に応じて		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>設計時・建設時、業者との打ち合わせが出来た分、傾り勝手、高さの調整等に不便が生じたため、安全に使用し、かつ自立した生活を遂げるよう工夫をした</p>		<p>問題が生じた際は、その都度改善している</p>
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室、トイレ等、目印として解りやすくある等の工夫を取り入れた 放り出している方の、目録として考慮した事もある</p>	○	<p>出来るだけ混乱なくしてより環境はきり 分りに個人をわかり易く出来る空間作りをしていきたい</p>
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>バルコニー、日光浴、喫、喫しめの場を設け、個人らしく活動してもらっている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者本位の自己決定が出来たり促したり、家族等への利用者との信頼関係が築きあげられており、協力してもらっている
 ケアに力を入れている。外出の機会を多くある事で、気分転換を図る事が出来、利用者の表情にもつがっている
 また、職員間同士、協力を促すことができ、業務に逆行出来ている
 今度も自ら出来る事が出来るケアに力を入れている場面に出くわす時もあるが、その手を止し、自らやる介護員を育成していった。